

4 志木市立S小学校(埼玉県)

学校概要

■ 規模

学級数	28学級
児童数	810人
教職員数	41人

■ 周辺状況・特徴

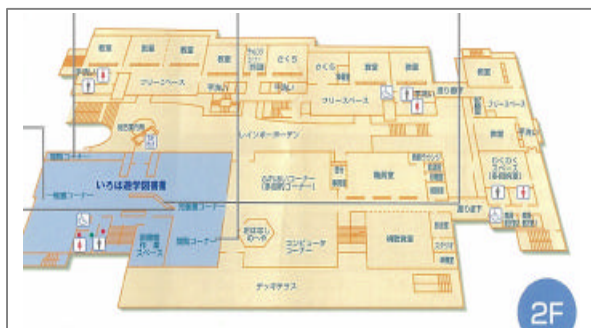
- S小学校は、市内の学校として最初に設置された学校であり、商業地域内で、市内主要幹線道路から近く、近隣に市民会館がある。
- 志木駅から最寄り为学校であるため、近年、駅前周辺に住宅の建設が進み、学区の人口は増加傾向にある。
- 小学校・市立図書館・公民館との複合施設である。



小学校正面

取組のきっかけ

- 「地域の教育力の向上」「学校教育の社会化」を目指し、地域に開かれた小学校として市立図書館と公民館の複合施設として計画された。
- 建設計画(平成15年3月竣工)の設計・工事期間中に各地で小学校侵入事件が発生したため、子どもたちの安全を確保するために防犯対策マニュアルを作成することとした。
- 小学校と不特定多数が利用する市立図書館、公民館との複合施設であることから、3者共通の防犯マニュアルを作成し、運用することとした。



2階平面図(黄色が小学校、青色が図書館部分である)

検討体制の設置

- 建設当初より、複合施設となる構成メンバー(小学校、市立図書館、公民館)の管理者に加え、施設を利用する周辺住民、町内会、子ども会等の代表者等からなる「公民館等管理運営委員会」を設置している。

主な検討体制メンバー

- 学校関係者
- 公民館長
- 小学校長
- PTAの代表
- 外部
- 町内会の代表
- 子ども会の代表
- 公民館利用者の代表

現状の把握と課題の抽出

- 建設計画中に防犯対策について検討し、設計・工事を通じ対策の確認や必要な措置がなされた。

主な防犯対策

壁面にガラスを多用し複数の「地域の目」による視認性を確保

死角となる箇所への防犯カメラの設置

教職員全員が緊急連絡用 PHS、笛を携帯

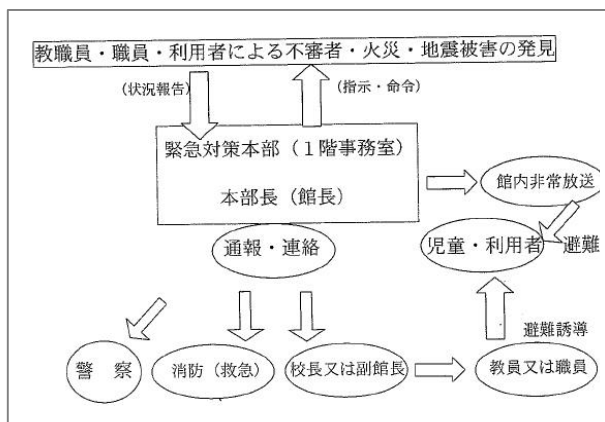
3施設の共通入口に警備員が1名常駐



見通しのよい壁面ガラス

マニュアル・チェックリストの活用 マニュアル

- 小学校、市立図書館、公民館3者共通の「危機管理マニュアル」を作成している。
- マニュアルは、「事件・事故、火災、地震」に対する平常時、非常時の手順、体制、担当等を示した内容となっている。



緊急時の初期対応フロー図

チェックリスト(日常点検)

- 常駐警備員の巡回による日常点検と市民ボランティア等の行政パートナーによる消防関係の日常点検を行っている。

点検 改善の取組の周知、見直し

- 年3回、防火、防災、防犯の訓練を実施し、関係者への周知と改善点の見直しを図っている。

訓練種別	訓練内容	実施時期(予定)
総合訓練	○ 不審者対峙、消火、通報及び避難誘導訓練等を連携して行う。	毎年 5月(防火) 10月(防災)
消火訓練	○ 屋内消火栓、消火器の操作及び消火訓練等を行う。	2月(防犯)
通報連絡訓練	○ 消防機関への通報訓練を行う。 ○ 校地への通報連絡訓練を行う。	
避難訓練	○ 避難及び避難誘導訓練を行う。	
安全防護訓練	○ 不審者との対峙訓練を行う。	
応急救護訓練	○ 負傷者への応急救護訓練を行う。	
地震想定訓練	○ 上記訓練内容に準じて行うとともに、防災機関や町会等で行う訓練に積極的に参加する。	

訓練の内容

- PTA主催による「子どもを守る防犯セミナー」や、小学2年生の児童とその保護者への「子どもへの暴力防止プログラム」を実施し、防犯意識の向上を図っている。
- 平成15年に作成した危機管理マニュアルについて、管理運営委員会において検討の上、平成16年10月に修正版を作成した。更に全体を整理し、平成18年9月に緊急時連絡先や避難経路の図面を添付したマニュアルを作成した。

周辺地域との連携

- 保護者等による市民ボランティアを組織し、週に一回校内を巡回している。
- 一般利用者に対し、この複合施設は「地域で子どもを守り育てる」ことを目的としていることを周知し、不審者への対応や日常的な挨拶などの指導も意識してもらっている。

今後の課題

- 学校と地域との連携を更に深めるために、公民館(社会教育施設)の利用者と児童との交流の場をできるだけ設定する。

研究会コメント

- 小学校と市立図書館、公民館の複合化を機会に、その特性を活かして、学校の中に「地域の目」を取り込み運用している点が特徴的である。
- 不特定多数が出入りすることから、防犯設備を充分活用しつつ、普段の声かけやあいさつなど「地域の目」による監視の継続が重要と考えられる。